

2018年8月20日掲載

## 歯の動く不思議 状態に合わせた矯正

子どもの歯並びが将来のかみ合わせに悪影響を及ぼすと考えられ、顎の成長を害している状況が見られるとき、また永久歯の歯並びをもっときれいにしたいときなどに歯の矯正治療を行います。

乳歯の時期に、口呼吸、親指やゴム製乳首の吸引、おしゃぶりなどの習癖が継続されると、口の周りの筋肉の成長発育に異常を来すことがあります。具体的には、上顎の側方発育阻害による片側の歯がぶつかり合いや乳臼歯が交叉（こうさ）したかみ合わせ、顎の前方発育障害による乳前歯の咬合（こうごう）不正や前方向への突出などです。

これらの状態が見られた場合、乳幼児期や学童期は、口の環境改善と育成を目的とした装置（機能的なもの、歯の萌出のスペースを確保するもの、顎自体に力が加わるものなど）を利用します。歯や顎の骨、関節を正しい位置に誘導すると、個々の潜在能力と成長の早さにより、新しい環境へ適応しやすくなります。

永久歯列完成後、乳歯列の不正を引き継いでいる場合や新たな不正が生じている場合には、個々の歯に器具をつけてワイヤーを通し、歯の広範囲な移動が必要になります。正常咬合を得るため歯を支える骨に圧迫とけん引を繰り返し、歯を傾けながら、目標の位置まで歯を動かします。

歯並びの治療は、早期（乳歯列、混合歯列）と永久歯列期、また使用する装置により歯の動く様式は変化しますが、歯の動くダイナミズムを不思議と思われませんか。